

# 防災教育の推進に係る実践のまとめ

開成中等教育学校

## SSH 防災サイエンス

～厳冬期の防災について考える～

### 1 実施日

令和5年(2023年)3月4日(土)

### 2 対象

- ・本校1年次(中1生)～5年次(高2生)
- ・近隣小学校4年～6年生

### 3 当日参加人数

- ・本校生徒および保護者50名
- ・開成小、元町小の児童と保護者12名

### 4 ねらい

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の取組として、冬の防災をテーマとしたシミュレーションゲームや実験体験、専門家による講演を通して災害時に自ら考え行動し、「自分の命は自分で守る」ことができる生徒の育成を目指す。また、今後の探究活動や課題研究等の視点の一つに加えることを支援する場とする。さらに、講師だけでなく生徒主体によるセミナーの運営により、協働スキルやコミュニケーションスキルの向上を図る。

#### ■講師

- ・日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター教授 根本 昌宏 氏

#### ■協力

- ・高校生ネットワーク「BLOSSOM(ブLOSSAM)」※開成中等教育学校を中心とした防災支援や防災啓発を実施している団体
- ・札幌市危機管理局危機管理部

### 5 活動内容

#### ①シミュレーションゲーム「防災ドラフト会議」(BLOSSOM進行)

地震等が起きたとして、その時に必要な防災グッズを4つまで



指定して、その重要度による点数を競うゲームを展開。

設定等は以下の通りで行った。

#### 条件

この日の最高気温が0℃、最低気温が-10℃まで低下します。外は大雪注意報が発令されています。電気・ガス・水道はいずれも止まり、復旧まで3日ほどかかりません。

家には、飲料水20L、食料(家族1日分)、調理器具が備蓄としてあります。

指定する防災グッズは次の中から4つ選びます。

- ・新聞紙 ・ラジオ ・小銭 ・飲料水 ・懐中電灯
- ・スリッパ ・ガムテープ ・モバイルバッテリー
- ・石油ストーブ ・ようかん ・トランプ 等

#### ②防災グッズ体験

- ・吸水性ポリマーの実験(トイレに関する重要性)
- ・災害用トイレの実演
- ・ハイゼック



- ・スによる炊飯と白米の試食
- ・非常食ようかんの紹介
- ・段ボールベッドの設営体験
- ・エマージェンシーシートの使用について
- ・札幌市指定避難所における備蓄用品の確認等

#### ③講演会「あたりまえの毎日を安全に健康に暮らすために」(根本氏)

冬の災害における被害状況を踏まえ、発電機の使用法、低体温症への対策、避難所でのトイレ対応等に関して説明され、厳冬期における防災への重要性を学習する機会となった。

#### <参加者よりリフレクション>

防災と聞くと色々やる事が多く大変だ。防災バックを準備することが大変だと思っていたが、今回のイベントではゲームなどのアクティビティーを通して自然に防災について考えさせられた。また、災害時に役立つ非常食をあまり身近に感じていなかったからこのイベントで実際に調理したものを見て、非常食の現在の進化を認識することができて興味が湧いた。